

桜中だより

長崎市立
桜馬場中学校
校長 大塚 潤

最高のチームの作り方



ともに学び合う姿は素晴らしい

先日、ある雑誌で、木下晴弘さんという方の「最高のチームの作り方」という記事を読みました。木下晴弘さんは以前、関西地方に20力以上の教室をもつ進学塾の先生だった方で、本もたくさん出されています。

内の人人間関係には、ある関係があったそうです。その集団を仮にA・B・Cと分けると、一番合格率が低いCはいじめ・いじりがある集団、一方、いじめ・いじりがないA・Bでも圧倒的な合格率のA、平均的なBと結果が割れました。でも、このA・Bの違いは分かりません。そこで木下さんは、昔の

生徒から「どんな勉強をしたのか」「どんな教室の雰囲気だったのか」と話を聞いたそうです。その違いは…。

Bは仲良し「グループ」だったのに対して、Aは見事な「チーム」だったので「グループ」と「チーム」の違いが分かります。例えば勉強。

集団C、一人一人がこそ

こそ勉強します。「やっていない」と嘘をつきます。同級生を油断させようとします。

集団B、一人一人、全体としてその仲はいいです。しかし、仲間は仲間、自分とは自分、干渉しません。

集団A、例えば数学が得意な子は苦手な子を教えるなど、周りの学力を向上させます。

また、塾にマンガをもってきた子がいたとしましょう。集団C、知らん顔です。集団Bも注意はしません。集団A、友達が注意します。「お前、ダメやろ。俺らは第一志望に全員受かるうて約束したよね。一緒に合格しようぜ。合格したらそのマンガを回し読みしようぜ」とすると、「そうだ。マンガしまつてこつち来い」と言っただけです。

塾のない日、集団Cは誰かの上に集まってゲーム三昧です。集団Bは、それぞれの家で勉強します。集団Aは、図書館や誰かの家に集まって勉強します。

集団Aの生徒の合格体験記には、次のような言葉があります。「僕の合格は、このクラスの友達がいないければ決して成し遂げられなかったと思う。」

このように、お互いがサポートし合って全員で目標を達成するという文化ができたとき、つまり、「チーム」になったときにものすごい力を人は発揮します。

3年生に限らず、1・2年生の皆さん、皆さんが所属している班・学級・専門部・部活動は、どの集団でしょうか。

そして、「グループ」を「チーム」にし、そのチームを構成している人、機能させていくのは皆さん一人一人の力です。

あきらめない学習

「一点突破」という言葉を聞いたことがありますか。自分の中で自信のあるところをどんどん伸ばしていく。そこから自信をつけて、他のことにも可能性を広げていくということ。例えば、

①「自分は勉強が苦手だ。でも、好きな歌手の歌なら、1・2回聞いただけですぐに覚えられ。」

②「野球部に入っているが、バッティングも守備も自信はないけれど、走る」となる絶対誰にも負けられない。

③「家でよく手伝いをする。ちつとも苦にならない。一人で作れる料理も20種類以上ある。」

励ますつもりが...

「勉強しないと●●しかねないよ。」

励ますつもりで何気なく言った親の言葉。●●には職業名が入る。職業に対する偏見を植え付ける典型的な例。

自分の家の職業を指して言ったらどうだろう？父(母)のようにならないために勉強せよというのだから、決して親を尊敬する気持ちは育たないと思う。「あんな子に負けてどうするか。親が恥ずかしい。」中学生にもなると、「あんな子」を軽蔑するのではなく、大人のメンツにこだわる親の方に反感を持つことが多い。

「踏み石」をつくって励ますのではなく、それぞれの職業に明るい展望を持たせて励ましたい。

信はないけれど、走る」となる絶対誰にも負けられない。

③「家でよく手伝いをする。ちつとも苦にならない。一人で作れる料理も20種類以上ある。」

総合力で勝負する必要はありません。

①なら、「暗記を武器に挑戦してみる。」

②の場合は、試合で塁に出たとき、足を生かして盗塁を試みる。

③だったら、家庭科の調理実習の時に、家でやっているようにテキパキこなして、自分の知っている

ことを友達に教える。

「一点突破」、それは、自分の中にある小さな自信や「得意」に火を付け、少しずつ大きな炎にしていけることです。点火しなければ、いつまでたってもチャレンジのチャンスは訪れません。

「考える」ことから「やる気」を起こし、自分から「実行」に移していく。これが「一点突破の公式」。

そこから自分しかない「技」が生まれ、自分の中に「自信」という大きな花を咲かせていく芽が育っていくのです。

おめでとう 市村アイディア賞受賞

このたび本校から、第55回市村アイディア賞へ応募したところ、総応募件数31,886件の中から厳正な審査の結果、

君(1年1組)

が『個人賞』を受賞することができました。とても素晴らしい、誇らしいことです。

以下に、どのようなアイディアだったのかを記します。

みんなが幸せになる帽子！

帽子！

■1年1組
今年の夏は、何度も熱中



オケ部 中央公民館まつりでの素晴らしい演奏

症警戒アラートが発表され、熱中症になるリスクが倍増した。しかし、外で仕事をする人や外に出なければならぬことも多い。

そこで僕は、熱中症になりにくく、冬はかぶっている暖かく感じられる帽子があればよいと感じた。この夏、弟と一緒に色による温度変化について実験をしたので、どんな人も快適に過ごせる色を発見できると思った。

実験の結果から、①黒が暖まりやすく、白が暖まりにくい②青より緑の方が

が熱くなる③14時30分〜15時30分は黒と白の温度差が10℃以上もあることが分かった。また、熱中症の危険リスクが高まる色は、黒・緑・青・赤・オレンジ・黄・白の順になった。

そのため、外気温にあわせて黒色・白色に変化する帽子があれば、体感温度を下げたりあげたりすることができると思う。白黒以外の5色の色の変化も『今何色かな?』と帽子をかぶる楽しみにつながると思う。

■審査員の評

一つの帽子で夏は涼しく、冬は暖かくなる帽子なんて、素敵ですね。しかも、帽子の色が変わるこ

とでそれを実現するなんて、目の付け所が素晴らしい、とても楽しいアイディアです。色によって、温度変化が異なる性質に気づき、いろいろな色水での温度変化を実験し、外気温によって帽子がどのようになら変わるのかを確かめ、心地がよくなるかを決めてくれました。この帽子ができたなら、早速かぶってみたいです。きっと幸せな気持ちになりますね。

これからも身近なちよつとした困りごとを見逃さず、モノの性質とうまく組み合わせた素敵なアイディアを考え続けてください。

県大会出場

■1年1組

僕は先日、県ロボットコンテストの基礎部門で3位をとることができました。ですが、まだまだ改善できることがあったと考えています。僕自身も、ロボコンメンバーの招集を忘れてしまったり、当日、体育館シューズを忘れてしまったりしてしまいました。他にも、緒戦に

全員が焦ってしまったて敗れてしまったこと、チーム内でのコミュニケーションをあまりしていなかったことなどがあります。

ロボコンで学んだことは、チーム内でのコミュニケーションの重要性です。「オリジナル部門」に出場した長崎中は、3チームあるにもかかわらず、互いに仲良く、応援や反省をしていました。

しかし僕達のチームはミスを人のせいにしてたり、とてもチームワークがよいとはいえない状態でした。

僕は九州大会で勝つために練習にしっかりと取り組むこと、練習をたくさんできるように努めること、チームメイトとコミュニケーションをたくさんとることを心がけます。

九州大会で勝つためには、ボールを確実にスポットに入れるように練習することが必要だと考えています。今はあまりそういった練習はしていないので、ボールを6個持っていて3個ぐらいしか置くことができていません。だから、九州大会までに新しい仕組みを作りたいです。

世界平和祈念ポスター標語展標語入賞者

■佳作
戦争は何も生まない 負の連鎖

(1年1組)

■佳作
忘れない 悲しみの雨降った日を

(1年4組)

■努力賞
うばわれた 友も家族も 一瞬で

(2年1組)

■努力賞
核兵器 持たず 作らず 使わない

(1年3組)

■努力賞
過去は変えられないが 未来は変えられる

(2年2組)

■努力賞
行動しなければ変わらない日々 勇気を持てば明るい未来に

(2年2組)

■努力賞
その思い 発進しないと伝わらない 語り継ごうよ平和に向けて

(3年2組)

■努力賞
長崎と広島を原点にして終点に

(3年4組)

■努力賞
忘れない 被爆者の苦しみ 語り継ぐ 世界平和を 実現するため

(2年3組)

明日11月22日(金)に実施予定の『きれいな町づくり運動』ですが、今のところ、保護者の参加が11名。ちよつと寂しいかなあ。お忙しいと思いますが、生徒会役員も企画・運営を頑張っていますので、ご協力をお願い申し上げます。生徒会役員のがんばり、すごいです。